

# ごあいさつ

伊藤園は、伝統飲料である「茶」を通じて社会に豊かな「食文化」を提供することを目的とし、1966年8月に創業いたしました。緑茶のトップメーカーとして経営基盤を築きあげる一方、1981年には世界初の「缶入りウーロン茶」を開発し、それまで存在しなかった無糖茶飲料市場を創造しました。そして1985年には不可能とされていた緑茶の缶ドリンク化に成功し、その後も野菜・果実飲料、コーヒー飲料の発売とともに総合飲料メーカーとしての確固たる地位を築いてきました。2007年4月期にはグループ全体で売上高3,000億円を目指しています。

当社は、「茶」をはじめとした農作物を通じ自然と密接な繋がりを持ち、自然の恵みを享受しながら事業活動をおこなっています。しかしその自然が今、エネルギー消費による温暖化や汚染物質の排出による水質汚濁、土壌汚染など深刻な状態にあります。これは「豊かさ」や「利便性」を価値として追求してきた消費社会の結果です。

また、輸入農作物の残留農薬や無認可添加物の使用などの一部企業による不祥事により、企業に対する社会の目は厳しくなっています。当社の姿勢や製品に対して信頼をいただくためにも、環境保全活動や品質管理体制の強化、ひいては企業倫理の向上など社会的な責任を果たしていくことの重要性を感じています。

2003年度を「新創業期」と位置付け、事業の効率化と経営基盤のさらなる強化に取り組んでいます。社会からの期待に応えうる健全で持続可能な経営を目指すために、環境対策は非常に重要な経営課題であると位置付けています。

具体的な取組みは2004年度を目標年度とした中期環境目標を柱として、全生産工場でのISO14001認証取得や空容器のリサイクル、低公害車の導入などを推進しています。経営資源を有効活用しながら効率的で無駄のない経営を追求することで企業体質を強化し、事業活動の目的である利潤の追求と環境保全を統合した経営に取り組むことが、企業と社会との持続的発展を遂げるものと確信しています。

経営方針にある「みんなで環境を考える」を社員一人ひとりが実践し、「自然と人間の共生」という新たな価値の創造を目指して一歩ずつ確実に前進してまいります。

この度、2002年度の環境保全活動の実績を中心に取りまとめた環境報告書(2003年度版)を作成いたしました。

当社の取組みをご理解いただくとともに、忌憚のないご意見、ご指導を頂戴できれば幸いです。

2003年10月

株式会社 伊藤園  
代表取締役社長



## 環境方針

### 【環境基本理念】

株式会社伊藤園は、「お客様第一主義」に基づき、すべてのお客様の共有財産である地球環境を守り、次世代に継承することが最重要課題であることを強く認識し、あらゆる事業活動において自主的・継続的に環境保全に取り組むとともに、自然と調和した食文化の発展に貢献いたします。

### 【環境行動指針】

1. 環境に配慮した製品製造、製品開発、研究に努めます
2. 省資源化・省エネルギー化を推進します
3. 排出物の抑制、適正処分・リサイクルを推進します
4. 地球温暖化・大気汚染の防止に努めます
5. 社員全員が地球環境への認識を高め、環境保全活動を日常から意識して行動します

## 環境保全活動の歴史

1991. 8

容器の内面にPET樹脂をラミネートしたスチール缶を採用

1996. 9

PETボトルのリサイクル素材を使用したユニフォームを採用

1997. 5

広報室内に生活環境課を設置し、環境保全活動を推進  
(現、生活環境室)

1998. 5

経営方針に『みんなで環境を考える伊藤園』を追記  
環境担当役員の就任、環境委員会の設立

1998. 5

営業車に天然ガス車を採用

1998.10

ITOEN環境NEWSを発刊

1999. 2

バック茶包装資材をPET系樹脂素材に順次変更

1999. 5

全車両を対象にしたエコドライブ運動を実施

1999. 8

自動販売機の空容器回収用に脱臭効果のあるポリ袋を採用

2000. 5

品質管理部内に環境管理係(生産本部環境委員会事務局)を設置(現、ISO推進係)

2000. 6

PETボトルのリサイクル素材を使用した空容器回収BOXを採用

2000.12

静岡相良工場および中央研究所でISO14001の認証取得

2001. 3

環境保全に関する環境方針を制定

2001. 4

社内用環境報告書発行

2001.11

浜岡工場、福島工場、神戸流通センターでISO14001の認証取得

2002. 4

グリーン購入基本方針を制定

2002. 8

環境中期目標の制定

2002. 9

初の社外公表となる環境報告書2002を発行